

(1) 農業

【現況と課題】

- 本町の農業はトマト、メロン、キュウリ等の施設栽培をはじめ、梨、イチゴ、バラ、シクラメン、千両などの花き、水稲などの複合経営を中心として、国の野菜指定産地として位置付けられる地位を確立しています。
- 本町の農業生産品目は多品種であり、経営形態も市場出荷を中心とした大規模経営から地産地消を主とした中規模・小規模経営、更には新しい農業モデルをはじめようとする新規就農者など多様性に富んでいます。
- 大・中・小の経営規模の違い、施設野菜、路地野菜、水稲、果樹、花など生産品種それぞれの違いに応じた個別政策と同時に、多様化した農業全体に共通する政策とを平行して進めることが求められています。
- 本町は様々な面で環境に恵まれています。大消費地である首都圏に近く、温暖な気候と観光資源、季節により変化する美しい田園風景など、立地、自然、経済活動などに活かせる多くの資源を持っています。
- これからの農業経営は、一次産品としての安全な農産品の生産技術はもとより、流通、マーケティング、販売技術、計数管理、品質管理など、総合的な経営力の強化が問われてきます。情報収集や販売の連携、また計数管理業務の外部委託や分業体制による組織力強化など、規模に応じた農業経営が必要となっています。
- 農地は作物生産の場以外に自然の洪水調節地、動植物の自然循環の地、都市の癒し空間など多様な役割をもっています。また農業は人々の食料生産としてだけではなく、人々が自然に接し生産の喜びを感じる活動、子供の教育活動、そして農業活動を通じたコミュニティ活動など、人々の生活を豊かにする側面を持っていることから、農業の多様性を活かすことで、農業活動がより振興するという好循環への対応が望まれています。

※農業をとりまく環境変化

後継者の減少	農家の高齢化と後継者不足により農家数が減少しています。
農産物の流通変化	市場出荷の他、直売所、インターネット取引、契約栽培など多様化が進行しています。
国際化の進展	輸入作物の増加と共に輸出の可能性も増大しています。
産地間競争の激化	全国各地で地域ブランドの商品化が活発化しています。
食の安全	生活者の農産物安全性への関心がより高まっています。

【基本方針】

首都圏に近く海など自然が豊富で住みやすいという一宮町の特徴を活かし、多様性ある既存の農業に加えて、町内外から農を楽しむ人々が集い、さまざまな形態の農業それぞれが輝き、町全体に農業が息吹いて響き合う、「農楽の町一宮」を目指します。

【計 画】

① 経営規模別支援

【大規模経営体】

- 長生地域の市場出荷について、千葉県など関係行政機関と生産者団体が協力して安定的な体制維持を推進します。
- 農業経営モデルの確立について、千葉県の技術指導体制により、消費者ニーズ等に即した対応を促進します。

(産業観光課)

【中規模経営体】

- 地産地消の役割を担う主な経営体として、生産販売の環境整備を支援します。

(産業観光課)

【小規模経営体】

- 希少野菜栽培など高付加価値農業化の取り組みを支援し、多品種少量化農業が維持できる環境整備に努めます。
- ツーリズム型農業の展開を推進するため、グリーンブルーツーリズムに関する研修会開催を千葉県等へ要望します。

(産業観光課)

【新規就農予定者】

- 農業経営や技術面について、千葉県や地元農家の協力を促進し、指導相談の環境づくりに努めます。農地の確保については農業委員会が窓口になり、新規就農予定者の相談を受け付けます。

(産業観光課・農業委員会)

② 交流拠点の整備（グリーンプラザの創出）

- 一宮町のブランド野菜や果実、農産加工品などを揃えた直売機能を核に、農業経営者と住民との交流機能、料理教室などカルチャー機能、本町の農業情報収集と発信機能、農業学習機能、総菜・加工品など商品開発機能などを複合した“人・物・情報”の行き交う特色ある地域拠点整備づくりを促進します。拠点整備には既存の公共施設などの活用を検討しながら、官民連携して取り組みます。

(産業観光課)

③ 地域資源との多面的連係

- 一宮町の農産物を活用した商品開発の研究活動を支援します。
- 農業者のグリーンツーリズム活動と観光団体との連係を促進します。

(産業観光課)

④ 農業を楽しむ住民の拡大と体制づくり

- 休耕農地情報を提供する窓口整備に取り組みます。
- 農地銀行制度を活用した農地の集約化や休耕地の斡旋を進めます。
- 市民農園、クラインガルテン等の整備を検討します。
- 町内外を問わず、若者から定年後世代まで、農業の規模や形態に関わらず、一宮町で新たに農業活動をしようとする人々、農業を知りたい人々、農のある生活をしようとする人々、農に親しみ農に触れたい人々たちを受け入れ、町に農業を楽しむ人々が増え、農業交流活動や農業コミュニティの輪が広がるような環境整備を推進します。

(産業観光課)

⑤ 農業活動を補強する要素

- 本計画に掲げる新しい農業に向けたシンポジウムの開催について、当地域での開催を千葉県へ要望します。
- 農業用溜池や排水施設の老朽化に対応した改修整備について、土地改良区など関係機関と協議し、機能の維持につとめます。
- 一宮町の農業に関する情報発信と広報・PRを推進します。

(産業観光課)

(2) 林業

【現状と課題】

- 森林面積は618haで、本町の面積の約27%を占めています。森林の多くは洞庭湖水系周辺、柚木・松子・奥谷地区、軍荼利山周辺の丘陵地帯を中心に存在しています。
- 既存の森林の間伐や下草刈り等といった森林の手入れが不足し、元気で健全な森の維持が出来なくなっています。丘陵地帯の森では当地本来の植生が後退し、竹林が増加し、森林の荒廃が目立っています。これらが観光資源、教育、憩いの場としての森の価値を損ないつつあります。

【基本方針】

地域産業資源（木材、森の恵み利用、地産地消型の産業振興）、森の生態系保護、水資源保護（農業用水涵養）、観光利用、教育の場、憩いの場として公益的機能面からその可能性が期待され、四季折々の景観を楽しめる森づくりの再生・保全を目指します。また植林、森の育成、生態系保護・保全活動を通じて子孫に残せる森づくりを目指します。

【計 画】

① 森林維持

- 住民団体、企業、NPO、ボランティア組織とも連携し、間伐、下草刈り等の森の整備活動を継続的に進めます。

（産業観光課）

② 林道整備

- 林業基盤整備、観光資源、町民の散策路として安全にも配慮した既存林道、遊歩道の整備を継続的に進めます。

（産業観光課）

③ 環境保全の促進

- 地権者、民間企業、自然保護団体、林業関係団体と連携し、里山整備の活動を促進する環境づくりを推進します。

（産業観光課）

(3) 水産業

【現状と課題】

- かつては九十九里全域でにぎわった水産業でしたが、本町には漁港施設がなく、現状は観光地曳き網と河口での種鰻採取が町の主な水産業になっています。

【基本方針】

7kmの海岸地域と一宮川河口での水産資源は、地産地消の面からの資源保護と利用法などの調査・研究が必要です。

【計 画】

① 水産資源の保護

- 九十九里漁業協同組合が実施する種苗や稚貝の放流による資源保護活動を支援します。
- 一宮川の水産資源について、保護と活用方法を官民連携して検討していきます。

(産業観光課)

② 観光漁業の育成

- 地曳き網漁などの観光漁業を育成します。県内外から観光客の誘致を進めるため広報活動に取り組みます。

(産業観光課)

(4) 商工業

【現状と課題】

- 近年、大型スーパーマーケットや大型量販店の進出が続いています。
一宮町商工会の会員数も減少傾向にあり、後継者不足が明らかな状態になっています。このような理由から、廃業や閉店する店舗が増加しています。
- 規制緩和により郊外大型店の進出が増加しており、売り場面積の拡大や深夜までの長時間営業などで、国道128号沿いの商店街は大型店と競合できないほどに衰退しつつあります。海岸沿いの県道30号沿いにはサーフショップや飲食店などの店舗が近年増加しています。
- 本町には、工業の大きな集積はなく、長生郡市の製造出荷額における本町の占める比重は小さなものです。
- 本町には、天然ガスが埋蔵されており、地下からこれを吸い上げ、ガスやヨードを抽出する工場が立地しています。

【基本方針】

上総一ノ宮駅から玉前神社周辺にかけての地域、海岸付近のリゾート地域、この二つの地域の商業振興を推進するため「玉前神社」や「海」をキーワードとした観光と連携し、関係機関と住民の組織的な展開を促進していきます。

環境との調和をめざす先端型の企業立地などについて研究し、地域の雇用創出を推進します。

【計 画】

① 商店街の再構築

- 玉前神社の門前町としての魅力を高めるため、上総一ノ宮駅から玉前神社への参道の整備や景観の統一について、地域住民の意見を取り入れた振興策の検討を図ります。
- 空き店舗を解消するための、地域の住民や商工会などとの協働で、新しく町内に店舗開業を希望する方々の受け入れ体制づくりに取り組みます。
- 江戸時代から続く六斎市の再興隆の支援について、情報提供などに取り組みます。
- 上総一ノ宮駅、九十九里有料道路起点、県道飯岡一宮線と国道128号線の接合点に案内板等を設置し、地域の統一性を持たせるよう支援します。
- 南房総へ至る通過ポイントとしての地域的魅力を高めるため、町内地場産品の販売イベントを開催します。また、長期的展望として地場産品直売施設の設置を目指します。

(産業観光課)

② 商業の活性化

- 本町の商業の魅力を高めていくため、商店街地域（国道128号線）と海岸地域（県道30号線）がより一体となるような支援を検討します。
- 地元農業者や観光との連携を図り、地元特産物や町内名所に関連した民間商品開発を支援します。
- 観光との密接な連携を図り、パブリシティ（プレスリリース配布などを行い新聞やニュースで報道されること）やキャンペーンなどを積極的に行い、大衆へ向けての情報発信力の強化につとめます。
- 歴史ある行事や祭礼などまちおこしにつながるイベントを商業として最大限活かすよう、商工会などと連携しイベントへの積極的な参加を促進します。

（産業観光課）

③ 企業進出の対応

- 環境に配慮した先端技術産業など、成長の見込まれる業種を中心とした企業の進出に対応します。

（都市環境課・産業観光課）

(5) 観光

【現況と課題】

- 海辺の急激な侵食により、白砂青松の地として有名だった一宮海岸の面影が消失しつつあります。海岸を人工的に整備しつつ、自然環境に配慮した一宮海岸へいかにして作りあげていくが課題です。
- 上総国一之宮玉前神社を始めとする伝統ある神社仏閣、洞庭湖及び周辺の里山、軍荼利山植物群落、拡張整備された一宮川など恵まれた観光資源があります。
- 観光関連のイベントとしては、十二社祭り（はだか祭り）、一宮町納涼花火大会、灯ろう流し、上総国一宮まつり、その他各種団体の観光イベントがあります。
- サーフィンの海として定着した海岸をサーファーが快適に楽しめる海岸施設の充実も大切です。
- 全体的に恵まれた一宮町の観光資源を上手に整備し、首都圏や近隣地区にタイムリーな情報発信が必要とされています。

【基本方針】

歴史ある神社仏閣、自然の環境を残した程よい規模の里山、サーフィンや海の遊びで賑わう海岸、たくさん水鳥や魚が住む一宮川。これらの素晴らしい観光資源を大切に守りながら、一宮町独自の観光地づくりを目指します。

【計 画】

① 観光資源の活用

- 一宮海水浴場を開設し、夏季観光客の誘致活動を推進します。
- 都心からの所要時間や、神社仏閣、里山や海辺など周辺条件が本町に良く似ている鎌倉エリアをモデルに観光地づくりを研究していきます。
- 上総一ノ宮駅から見える位置に町の観光イメージをアピールする看板設置を住民の方々の意見を聞きながら検討します。
- 山間部の老女子、追手、洞庭湖周辺に桜、モミジ、水仙、ツツジ、あじさいなどの植栽整備を検討していきます。
- 一宮川の遊覧船については、カヌーやボートなど新しい形態を検討し、民間企業やNPOによる活動を支援していきます。

(産業観光課)

- 一宮川両岸に四季の花々を植栽し、散策の楽しめる一宮川の整備を県に要望していきます。
(都市環境課・産業観光課)
- 著名な文人、名士、軍人の旧別荘地跡など歴史的価値のある場所について、地権者の協力と理解をもとめ、広く周知するための案内板の設置を検討していきます。
(教育課・産業観光課)
- 侵食の進む海岸は、海亀の産卵が可能な自然など、生物多様性基本法に即した環境や、サーフィンや海風を楽しみながら散策できる環境を残していけるよう、有識者や町民の皆さんと一緒に考え、検討していきます。
(都市環境課)

② 観光活動の活性化

- 四季それぞれの代表的観光イベントを作り、住民参加のもと大切に育てていきます。
春：桜などのお花見イベントなどを検討。
夏：納涼花火大会、一宮川の灯ろう流し。
秋：玉前神社裸祭り、上総おどり。
冬：菜の花や水仙などのお花見イベントなどを検討。
- 町職員と住民の協働で観光宣伝キャンペーンを実施します。町長も率先して町のトップセールスを実施します。
- 世界大会など大規模なサーフィン大会が開催される際には、官民連携して受け入れ体制を整備します。
- 町の名所旧跡を案内説明する観光案内人の育成につとめます。
- ホームページ掲載や新聞・雑誌などへの情報提供活動について積極的に推進します。
(産業観光課)

③ 広域的な自治体連携の促進

- 山武・長生・夷隅の広域的な観光整備及び観光活用を関連自治体や関連観光協会が合同で協議していけるよう働きかけていきます。
- 広域で合同観光キャンペーンを実施し、幅広い観光客層拡大を図ります。
(産業観光課)

- 一宮川河口周辺の水質は改善していますが、上流地域からの漂流ごみや流竹木の堆積が問題となっています。一宮川流域の自治体協力による美しい一宮川の復活と家族で水遊びのできる河口の整備対策を推進します。

(都市環境課)

④ 地域体験の充実

- 夏季限定の観光地引き網イベントの実施に取り組みます。
- 気候温暖な一宮町で自然環境を体験してもらえよう、ウォーキングが安心してできる環境づくりを推進します。

(産業観光課)

(6) まちおこし

【現況と課題】

- 本町は現在、観光ニーズの変化による観光客の減少、商店街や農業など地場産業の後継者不足による高齢化、都市部への若年層の流出など、解決すべき多くの課題を抱えています。地域の雇用創出のためにも“まちおこし”が求められる時代になっています。
- 自立した町を目指すためには、地域資源を活かした取り組みを欠かすことが出来ません。まちおこし活動によって、町への訪問者が増えることは予測できますが、これらの人たちがリピーターとなり、地域の人たちと交流が継続されるためには、時代の変化にともなった新しい「しくみ」や「しかけ」をつくっていくことが求められます。
- まちおこしには、食を含め、ものづくり体験、川面や水辺での活動、歴史街道の散策、神社仏閣を始めとする地域の歴史・文化資源の探索など、他の要素といかに連携をとれるかが課題となります。広域な連携交流を図るためには、多様な関係機関との調整や協働が必要となります。
- まちおこし活動は、将来の地域をつくる人材育成にもつながります。このため地域を担う人材の定住化が課題となります。

【基本方針】

産業活性化活動や地域づくりなど、まちおこし活動は、さまざまな人と人との出会いと交流が不可欠です。各地区でのコミュニティ活動の活発化をはじめとして、様々な人と人との交流機会を増すために、シンポジウム・研究会・各種の催事などを通じて、周辺地域や都市間交流、文化交流、新旧町民の交流、世代間交流などの交流活動を推進します。本町のまちおこしは、多様性のある町の特色を生かして一宮町でしかできない個性を創造します。官民が一体となり観光、商業、農業を連係した活動を創造します。産業、生活、自然環境、歴史などのバランスの良さを保持し、経済的、精神的に自立するまちおこしを目指します。

(一宮町の多様な資源)

- ◇ 温暖な海洋性気候、都市施設と共生した豊かな自然環境
- ◇ 丘陵・里山、河川、海岸、田園などの多様な自然と風景。
- ◇ 都心部から70km、千葉から35kmという交通利便性。
- ◇ 上総一之宮玉前神社をはじめとする史跡と伝統文化芸能遺産。
- ◇ トマト栽培やメロン栽培など多様な農業活動。
- ◇ サーフィン・ゴルフ・乗馬などレジャーリゾート地としての集積。
- ◇ 文化人の避暑地、別荘地としての歴史。

【計 画】

① 町の個性の創造

- 町全体の個性と総合力を高めるために、まちおこしのイメージマップ（次頁）で示すように、各地区の資源と個性を伸ばす活動を進めます。首都圏近郊で海・山・歴史を有する鎌倉エリアをイメージ目標とし、一宮町独自の個性の創出にむけた調査研究に取り組みます。

（まちづくり推進課・都市環境課・産業観光課・教育課）

② 交流による価値創造

- 農業体験と海洋レジャーなどを組み合わせた自然を満喫する体験型レジャーなど観光、商業、農業など地域が連携した民間のグリーンブルーツーリズムの創出を促進します。交流人口が増えるよう、受け入れ体制の整備につとめます。

（産業観光課）

③ まちおこしの継続

- 実施した活動の評価、見直し、計画の修正を繰り返し、まちおこしの精度を高めるとともに、活動の輪が段々と広がるように住民活動を支援します。住民が継続的に活動に参加し、町民のまちおこしへの意欲が高まるよう、町民提案型の活動を促進します。

（まちづくり推進課）

④ 美しい街並によるまちおこし

- 自宅の庭先、店頭、田の畦、湖畔、公園、散策道、道路や路肩など、町のいたるところに花が溢れ奇麗に整頓された美しい町空間を創造するため、植木や花の交流会、ボランティアによる除草や剪定活動など官民の連携活動を推進します。

（都市環境課）

⑤ 物づくりによるまちおこし

- 古くから農・海産物や菓子等の加工品、酒、手工芸品などの名物が地域産業を興しています。近年はご当地グルメやB級グルメが話題で、「名物に旨いものあり」として各地で名物が誕生し、地域の活性化を促す例がみられます。町の個性づくりのイメージと相まって、農・商・工（加工食品等）が連携して、地域資源を活用した名物が誕生し活性化が促進されるよう環境整備を推進します。

（産業観光課・まちづくり推進課）

⑥ 定住化の促進

- 地域産業の担い手となる人材の確保を図り、地域活力の維持向上を目指すため、多様な関係団体との連携により、定住人口の増加を推進します。

（まちづくり推進課）

まちおこしのイメージマップ

バラエティ豊で個性的な資源を持つ一宮町のまちづくりでは、それぞれの地域がもつ個性的資源を守り活かすことが大切です。このイメージ図を目標に、それぞれの地域の資源を確認して、個性的な地域づくりによるまちおこしを進めます。

A. 門前町ゾーン

- 駅前来訪者へ一宮町イメージのPR
- 街並みの保存と美化によるイメージアップ
- 一宮町ガイド機能の強化
- 商店の活性化
- 一宮ブランドの増加
- 空き店舗の活用化
- 地域生活者と店舗との交流
- 神社仏閣の施設や歴史のPR
- 催事による集客力の強化

B. ニュータウンゾーン

- 住宅街としての美しい街並環境づくり
- 良好なコミュニティの形成
- 乱開発防止と都市基盤の整備

C. フルーツ里山ゾーン

- 里山づくり
- 自然散策道の整備と森林浴
- バードウォッチング
- 果実加工品開発など付加価値づくり
- 地域の景観整備
- 他地区や他業種と連係した直売機能の強化

D. リバーサイドゾーン

- 歴史的別荘地イメージの醸成と相応しい環境づくり
- 歴史的別荘文化のPR
- 一宮川の自然保全と川資源の活用
カヌーなどでの川自然体験ツアーなど

E. 一宮ルーラルロード（夢街道）

門前町ゾーンとシーサイドゾーンとの商業活性化を促すために、美しい景観に調和した個性的なロードを整備。
特に両サイドゾーンから東西方向への回遊を促す機能や施設の整備。田園景観と調和する拠点施設整備や、道路沿いの植栽整備、ベンチや日陰の設置など歩行者や自転車利用者にも寄与する休養施設の整備。

F. シーサイドリゾートゾーン

- 海岸、砂浜自然の保全
- 海辺を親しま環境の整備
- リゾート地一宮の個性的景観づくり
- サーフィンと相性の良いイメージの醸成
- ホテル、ショップ、飲食店、乗馬施設など商業活動の活性化
- 住宅・別荘ゾーンの街並形成

G. アグリビレッジ&田園ゾーン

- 農家住宅街景観の保全
- 農家宿泊体験などアグリツーリズムの展開
- 四季折々の田園景観の保全と魅力の増加
- 直売所の活性化、他業種との連係
- 農業の付加価値の拡大化

